

(第三種郵便物認可)

マス商事

SMT関連  
装置  
海外需要堅調

ヤマハ発動機と連携強化

製造装置商社・マス商事は、中国や東南アジアの事業を拡大している。手狭になった営業拠点の移転、人員の増強や製造装置のサプライヤーであるヤマハ発動機との連携強化などを進めている。

女性のサービス要員など人員増強



大金 執行役員

同社はヤマハ発動機（ロボティクス事業部）代理店として、実装機を中心にプリント基板検査装置、クリームはんだ印刷機、などSMTに関わる装置を幅広く扱う。

国内のほか中国（蘇州、深圳）、シンガポ

ール、マレーシア、フィリピン、インドネシア、タイ、ベトナム（ハノイ、ホーチミン）、メキシコ、インドに営業拠点を構えて、海外展開する日系企業向けのビジネスに対応している。海外営業を統括する大金裕和営業統括本部執行役員・マストレーディングシンガポールMD（タイ駐在）は「製造業は半導体をはじめ部品不足が厳しい状況にあるが、実装機などは落ちている。タイはSMT関連装置の需要は落ちている。タイでは日系の家電メーカーがエアコンなど白物家電を生産しているが、設備需要が回復してきた。家電やOA機器向けに実装機の売れ行きが伸びている。タイのほかインドネシア、マレーシアなど東南アジアは全体的にSMT関連需要は好調に動いている。中国はコロナ禍のロックダウン

の影響を受け、生産を東南アジアの工場に移したり、日本に戻すケースもあるが、中国国内の生産自動化ニーズは依然として高い。部材不足や部材価格の値上げ、地政学的なリスクなど、さまざまな課題から先行きは不透明だが、年内のSMT需要は高水準で推移するとみている」と話す。タイは事務所が手狭になり、このほどバンコク市内の中心部に移転した。海外の営業やサービス体制強化のため人員増強を進めている。海外各拠点の人員を合わせて約20人増強する計画で、サービス要員に女性の採用も

進めている。また、マレーシアなどでは女性管理職の登用も始めている。さらにヤマハ発動機との連携を深める。ヤマハ発動機は実装機、はんだ印刷機、基板検査装置（SPI、AOI）、SMDストレージシステム（部品自動倉庫）、ディスプレイなど実装ラインの主力機器を、全てヤマハブランドで構築可能なフルラインアップ体制によるSMT「ワンストップスマートソリューション」に加えて、FAやグループのYRH（ヤマハロボティクスホールディングス）の製品を加えたクロスセルを強化している。大金執行役員は「SMTラインを一元管理するためヤマハの装置でそろえたい」といった顧客が増えている。最近では実装機の導入に合わせ、ヤマハ製のプ

プリント基板検査装置も同時に導入するといったケースも増えている。YRHの半導体後工程のボンディング装置は、マレーシアや中国で引き合いが出てきている。ワンストップスマートソリューションを積極的に推進して

いる」と語る。製造業でインドへの投資が注目を集める中で、同社は既に営業拠点を構えている。大金執行役員は「インド市場もオートバイや、車の電装基板実装に伴う需要を中心に開拓を進めている」と話した。